

令和7年度 宮崎県立門川高等学校 年間反省

I. 各分掌

1. 教務部【総合評価3】

(1) 教育環境の基盤づくりのため、教育課程編成と学習指導の充実の実現に取り組む。

①生徒が主体的に学ぶ授業の実践。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①生徒の実態に応じた特色ある教育課程の編成および評価についての研究・実践を行う。	4	4	自由選択科目を増やすことで生徒の学びの多様化を図ることができた。評価に関して、教科代表者会を通じて、文科省の考えも考慮しながら本校の実態に合わせた体制を構築できた。
②ICT機器の適宜活用を前提とした個別最適化を図り、生徒の「考えるチカラ」や「行動するチカラ」の育成を目指す。	3		スタサブを導入することで、生徒が所持しているタブレット活用の機会が増えた。しかし、常にタブレットを忘れてくる生徒がいることや教科や教員によって活用度の差があることが課題である。

②学力向上への組織的対応。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①日々の業務の確実な遂行と各行事・式典の計画的な運営を行う。	3	3	各系列等の細かい取組を全体に周知することができていないことが多く、例年と比較して先生方からの問い合わせが多かった。今後はミラ임等を利用し各情報の周知徹底を図っていききたい。
②年次や他の校務分掌と連携し、多様な生徒への学習支援について研究し、生徒の学習環境を整備する。	2		定期考査中には、教育相談部との連携による、特別な配慮が必要な生徒への対応を、ルビ振りや別室受験などの形で行うことができた。しかし、ヒューマンエラーによって配慮を受けられなかった生徒も一部いたため、来年度以降は十分に気をつけるべきである。
③各教科・年次と連携を図り、各考査前後の取り組みを充実させる。	3		テスト前学習会を企画し、考査に向けて生徒への支援を行うことができた。しかし、学習会の実施日数に対して対象生徒の数が多く教科担の負担が多い面があった。
④指導と評価の一体化を図るための職員向けの研修や情報発信を適宜行う。	3		観点別評価をテーマとした職員研修を実施し、評価についての足並みを揃えることができた。教科代表者会や職員会議において、適宜な情報発信がおこなえた。
⑤生徒の実態に応じた日々課題やフェニックスタイムの計画の見直しを通し、生徒の学習習慣の定着を図る。	4		図書渉外部と連携し朝読書の中にフェニックスタイムを組み込むことができた。生徒の実態に合わせた学習支援を今後も実施していききたい。
⑥公開授業を通して、教科横断的な学習指導のきっかけを作るとともに、教員の授業力向上を図る。	4		授業公開週間を実施したことで、他教科の授業を参観するきっかけとなり、アンケートのフィードバックによって自分の授業について見直す機会にもなった。授業力向上に対する良い手立てだったと考える。

(1) 特色ある学校づくりのため、広報活動の充実と保護者や地域との連携に取り組む。

①計画的・戦略的な広報活動の充実。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①本校への興味関心を喚起するべく、中学生の視点に基づいたパンフレットやポスター、学校紹介動画の作成を、生徒を主体として行う。	2	3	インスタグラムの積極的な活用と、学校案内パンフレットの制作に尽力した。来年度のパンフレット作成についても年度内に取り掛かり、計画的に作業を行っていききたい。生徒主体とは言い難い部分もあるので、来年度の課題としたい。
②多様な機会やメディアを利用し、中学生や地域への情報発信を積極的に行い、オープンスクールの参加者の増加を図る。	4		門川高校の取組の発信としては、特にInstagramが活発であった。中学生や地域の方々も気軽に見ることができるので、今後も取り組んでいきたい。

②公開授業や学校施設開放の実施。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①門川町や学校評議員など、校内外と連携し、参加者の満足度の高いオープンスクール及び授業公開の企画・運営を行う。	3	3	オープンスクールは多くの中学生が訪れ、関係機関との連携が図れていた。授業公開は、地域の方が少ないように感じたので、もう少し情報を発信し、関係機関と連携していききたい。

③学校運営協議会制度を活用した地域との連携。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①校内の様々な行事や取り組みに積極的に地域を呼び込む計画を検討する。	3	3	様々な場面で地域と連携した取組を行うことができていたが、次年度に向けて各情報の集約や周知を徹底していききたい。

2. 生徒支援部【総合評価3】

篤実剛健の精神を身につけた品性豊かな生徒を育成する。

(1) 部活動加入の向上及び定着化を図り、部活動の生徒による学校活動の活性化を図る。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①全校生徒の部活動加入率及び定着率の向上を図る。（部活動の定着率80%以上を目指す）	2	3	1年生における加入状況は良かったが入学後の定着状況がもう少し伸びてくるとさらに良いと感じる。安易な部活動変更をさせない前向きな変更になるような指導を行いたい。
②大会成績や活動実績で評価できる個人・部（同好会）に対して表彰を行う。	3		年間を通じての表彰になると思うが、現状では陸上部は1年生を中心に多くの入賞者を出した。他の部活動も成果を出しつつある。
③学期終了時及び定期考査最終日に部活動集会を実施する。	4		すべては実施できなかったが部活動生としての意識を醸成することは出来た。
④部活動生による年2回の校内外での奉仕活動及び地域イベントへの参加を積極的に行う。	4		部活動としての地域へのイベント参加などを行えた。陸上部での中学校の体育大会支援や野球部の門川町ベースボールフェスタへの参加、ホッケー部のオール日向祭での広報活動など成果があった。

(2) 生徒会役員が中心となり、生徒一人ひとりが気づき楽しむことができる行事の企画・運営を図る。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①各種委員会の全クラス出席率100%を目指し、委員会独自の活動を推進することで活性化を図る	3	3	残念ながら100%の参加ではなかった。各クラスでの委員会の内容周知がどのように行われているか確認する必要がある。
②生徒の活躍の場となる生徒会行事で全生徒が積極的に関わることのできる企画・運営を行う。	4		各種行事に対して積極的に取り組んだ。歓迎遠足や清亮祭などにおいて生徒のアイデアや企画が出ていた。校則改正や集会時、通常の学校生活においても独自の企画、運営力を身につけさせたい。

(3) 基本的な生活習慣や社会的マナー等の規範意識の醸成を図る。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①風紀委員主導の活動を活性化し、服装容儀指導本指導での合格率80%以上を目指す。再指導で合格率100%を目指す。	3	2	1年生を中心に服装容儀の乱れが気になる。冬場に防寒着（パーカーやセーター、カーディガン）の変更を行った。生徒職員共に意識の変革が必要である。
②容儀指導強化週間を学期1回以上実施するとともに、全職員共通理解のもとに新たな容儀指導方法の確立を目指す。	2		強化週間を設け、制服の着用について意識の高まりはあった。新しい防寒着の授業態度、学校生活におけるマナーを高められるような取組にしていきたい。
③担任や年次団と連携した遅刻指導を行い、遅刻の数を30%減らす。	2		同じ生徒が同じように遅刻する。生徒個人の問題なのだろうが習慣を変えるような厳しい指導やルール作りが必要である。

(4) 学校安全教育を通じて、安全に関する意識及びマナーを学び実践力の向上を図る。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①交通安全委員主体の自転車点検を学期1回以上行い、さらに自転車ヘルメットの着用を促す取組で20%の着用を目指す。	2	2	点検は定期的に行い、施錠率は昨年度昨年度70%平均が80%以上に上がっている。自転車ヘルメット着用が低調であり、2年生を中心に購入に向けての動きを加速させたい。
②列車通学生集会を年2回行い、利用マナー等の指導を行う。	2		2学期は定例で実施できなかった。外部からのクレームで臨時に実施したが、乗車マナーや列車内でのマナーの改善を図りたい。
③全職員での登下校指導を年3回及びPTAと連携した登校指導を年1回実施する。	2		2学期は実施できていない。PTAと連携した登校指導は企画できていなかった。
④統一LHRや避難訓練、学校安全連絡協議会等を計画的に実施し、防災（減災）教育の充実を図り、防災（減災）意識を高める。【SPS関係】	4		門川町との連携の動きやSPSに関する各種発表を通じて一定の評価を得ている。防災士の資格を取得するなど意識の高い生徒も増えている。各種避難訓練や地域連携の防災活動を通してより一層の理解と意識を高めさせたい。

(5) 年次団、系列、家庭、地域、関係機関等の連携を密にし、生徒に多くの経験を積ませることで社会性の向上を図る

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①無断アルバイト者0を目標に、定期的にアルバイトの説明会や集会を開く。また、平常時アルバイト先の巡回を年1回以上行う。	3	3	無断アルバイトによる指導は今年度いなかった。長期休業中のアルバイト説明会は実施されたが、集会は実施していない。ただし、アルバイト生徒に対してきめ細かな指導や報告は実施している。アルバイト先の巡回を実施したがシフトが分からず空振りが目立った。
②ボランティア経験者50%以上を目標に、案内を適宜行う。	4		多くの機会を捉えて積極的に参加している生徒が見られる。町内でのイベントでの参加はめざましい。
③関係機関等との連携を密に図り、生徒の規範意識を高める指導を行う。	2		大きな問題行動が多く、警察との連携は密に行われた。地域からのクレームは登下校時、駅周辺での生徒の言動であることが多い。

3. 進路支援部【総合評価3】

生徒の進路目標を明確にさせ、社会状況及び個に応じた組織的・継続的な指導・支援を行い、広く社会に貢献できる「人財」を育成する。

(1) 3年間を見通した進路指導につながる組織的な取り組みを学校全体で行う。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①校内の進路指導・キャリア教育につながる取り組みを整理し、学校全体で取り組む。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア担当を中心に、科及び系列・年次等と連携し、学校全体でのキャリア教育に取り組むことができた。 ・定期的に進路関係行事やLHR等を行い、意識の高揚につなげた。
②キャリアワーク、キャリアログを活用して、学年に応じたキャリア教育計画を実践する。	3		

(2) 数年先まで見据えた進路先の開拓を行う。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①企業訪問や学校説明会への参加を積極的に行い、進路開拓の一助とする。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望進路に合わせて企業訪問や学校説明会への参加をすることができた。 ・機会があれば、職員の企業訪問ができると良い。

(3) 進路指導・キャリア教育の観点での教育活動を主眼として、外部と連携した行事・イベント等を効果的に実施・活用する。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①インターンシップや学習成果発表会の計画・調整・運営を組織的に行う。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・担当の先生を中心に連携して行うことができた。 ・「学習成果発表会」は、進路支援部メンバーを中心に運営したが、人員不足のため、以前は進路で担当していた仕事も他の先生方に依頼する形となった。 ・1学期に「卒業生の話を聴く会」を行い、特に3年生の進路への意識が高まった。 ・「卒業生の話を聴く会」は、組織的に行えた。実施時期が早いため、新年度を待たずに人選をしておく方が良い。 ・意識の高い生徒は学年にかかわらず参加している様子が見られた。 ・2年生がオープンキャンパスに参加する話を今年はよく耳にしたが、全体的に早い学年でもっと生徒が参加するようになるとよいと思った。
②校内で実施する進路ガイダンス・卒業生の声を聴く会・地元企業による説明会の計画・調整・運営を組織的に行う。	4		
③校外で行われる進路説明会・オープンキャンパスの参加案内を適宜行い、生徒の年2回以上の参加を目標とする。	3		

(4) 生徒・保護者に対する卒業後の進路決定に向けての取り組みを充実させる。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①「産業社会と人間」の取り組みについて、内容と効果的な指導方法について検討する。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画者と実施者が別で、時間割もあいていないため、授業の様子が伝わらない。計画の善し悪しや改善点について共有できる機会をとるか、授業者が計画するか、計画者が参観できるかする必要がある。 ・外部講師の先生方のおかげで、公務員や自衛隊への就職活動の意識が高まった。 ・校内でも協力して3年生の対応ができた。外部への依頼を最小限にして実施した。時間の調整がしやすかったことや、指導が行き届きやすかったとの意見が出た。ただし、夏休み目前の時期でもあるため、セミナー実施時期を考えていく必要もある。 ・4月の3年次PTAにおいて、進路に関する情報提供を行った。 ・ほぼ目標通りの状況。未定生徒もほとんど見通しが立っている。 ・校内だけでなく、校外でも関係職員と3年生の進路実現に向けて連携することができている。
②進路対策講座(夏期ほか)について検討・実施を図る。	3		
③卒業後の進路に関する情報を、生徒や保護者に提供するとともに、本校の進路実績の広報を行う。	3		
④3年学級担任との連携を密にすることで12月までの進路実現を目指す。(12月決定率90%を目標)	4		

4. 教育相談部【総合評価3】

教育相談活動や人権教育を通して、生徒の自己肯定感を高め、自己決定能力を引き出していけるような支援を組織的に行う。

(1) 各年次・系列との間で生徒の情報交換を密にし、保護者や各校務分掌とも連携しながら中途退学対策に努める。将来の夢や志を持たせ、困難な場面を乗り越える強さを育成する。

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①クラス担任から情報提供(3日以上欠席が続いたら報告)	3	3	○成果:各年次担当が年次会に出会したり、養護教諭とも連携しながら、生徒の情報を共有をすることができた。また、サポート委員会を実施し、支援が必要な生徒の確認を行い共通理解を図ることができた。 ●課題:後期から部会が7限目になったが、放課後に急な集会や会議、生徒対応が入ることも多く、定期的に部会を実施することが難しくなった。大切な情報共有の機会なので、次年度は時間割内に入れていただくと有り難い。
②保健室からの情報提供	3		
③教育相談室に来室した生徒や保護者の情報共有。	4		
④定期的にいじめ・不登校対策委員会を実施し、早めに手立て(個人面談等)を打ちながら、不本意な形で中途退学に繋がる生徒を増やさない。	3		
⑤学期に1~2回サポート委員会を開き、配慮すべき生徒の把握と共通理解を図る。	3		

(2) 学校生活での困り感・いじめ・不登校等の実態を把握し、定期的に関係職員との共通理解を図り、その支援策を協議する。

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①定期的に学校生活・いじめ等に関するアンケートを実施。	4	3	○成果:各種アンケート(学校生活、いじめ、スマホ、セクハラ)を通し、実態を把握し、必要に応じてケース会を実施する等、対応することができた。いじめについては、共通理解を図る機会として職員研修を実施した。遠隔授業については、サポート委員会で議題にあげ検討した。 ●課題:ここ数年、不登校状態から進路変更するまでの期間が短い傾向がある。不本意な形で進路変更にならないよう支援したい。
②いじめ・不登校対策委員会を開催し、いじめ・不登校等の問題の情報共有と早期解決を図る。	3		
③いじめに関する職員研修の実施。	3		
④必要に応じて、担任・年次での対応困難な生徒について、関係者を集めてのケース会を実施。関係校務分掌と連携し、遠隔授業にも対応できるよう準備を進める。	3		

(3) 人権学習を通して、生徒間の望ましい人間関係をつくるとともに、同和問題をはじめ様々な人権問題を学ぶことによって人権意識を向上させ、その解決に向けて主体的に取り組む態度を育成する。数値目標…年3回実施

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①全校生徒に対し学期に1回、適切な内容を検討し統一人権学習を実施する。1学期に1,2年次には「人間関係づくり」、3年次には進路の「統一応募用紙」に関しての人権学習を実施。	3	3	○成果:1学期は、いのちの教育週間に教育委員会が制作した動画を見せたり、本校のSCをリモートで紹介し話をさせていただく機会を設けた。次年度はLHR等で講話をお願いすることも検討したい。また、12月に統一LHRで人権学習(アサーティブコミュニケーション)を実施することができた。 ●課題:1学期に人権学習の機会を企画したものの、熱中症を懸念し、中止することになった。次年度は、熱中症や感染症の時期を考慮して設定したい。
②いのちの教育週間(1学期)に、人権について考える機会を設ける。	2		

(4) 「特別支援教育」に関する職員の理解促進を図るとともに、支援が必要な生徒については、人格と個性の多様性を尊重し、卒業後を見据えて保護者や専門機関と協働しながら支援していく。

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①特別支援が必要な生徒に関する情報を提示し、全職員の共通理解を図る。(4月に全職員に対して、生徒情報連絡会を実施。)必要に応じて教科担任会を実施する。	4	4	○成果:1年次については、中学校からの引き継ぎと保護者からの情報、2,3年次については、前年度の担任からの情報をもとに、年度当初に職員研修(生徒理解)を行い、情報共有を行った。また、SC、SSWの他、就職支援に向けて各種専門機関とも連携し、生徒支援に繋がった。 ●課題:年々、支援が必要な生徒が増えている。よりよい支援のあり方の検討が必要である。
②新入生保護者へアンケートを配布・回収。早期に生徒の情報収集を行い、担任へ繋ぐ。	4		
③保護者、専門機関(スクールカウンセラー、障がい者就業・生活支援センター、スクールソーシャルワーカー、チーフコーディネーター、病院、福祉等)、進路支援部との連携をとりながら対応していく。	3		

(5) コミュニケーション能力や他者理解、自己受容、傾聴などのトレーニングを行う中で、人と関わる喜びや思いやりあふれる関係をつくるための「ピア・サポート活動」の実践に向けて研究を深める。数値目標…年7回

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①ピア・サポーター養成講座の実施。	2	2	○成果:例年参加している2,3年生に加え、1年生にも声をかけ参加を呼び掛けた。(参加生徒10名) ●課題:年度当初に相談部職員で分担し、実施計画を立てたものの、急遽、生徒対応等が入ることも多く、予定通り実施できなかった。一部の生徒の居場所になっている側面もあるが、より多くの生徒に還元できる活動になるよう、人権学習の内容を充実させる等、あり方の再検討をしていきたい。
②主に人間関係づくりに自信がない生徒をこの講座に参加させ、自己肯定感や他者理解、自己開示、コミュニケーション能力などを育成する。			

5. 環境保健部【総合評価4】

(1) 生徒、職員の美化意識の向上と美化活動への積極的な参加をはかる。

①清掃をきちんと取り組む態度の育成。※環境美化重点目標を各クラスに掲示して意識させる。
(満足する職員・生徒が90%以上)

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①通常清掃時の取り組み強化と教室美化に努める。 ※定期テスト1週間前を「清掃強化週間」とする。(美化委員生徒の評価8割以上)	4	3	「清掃強化週間」を年6回実施した。正直、取組状況が良くなったとは言えないが、清掃に対する意識の持ち方は変わってきたと思われる。ほとんどの生徒がしっかりと清掃に取り組んでいるが、指導も必要な状態と思われる。
②清掃時間の始めの会(確認)と終わりの会(反省)を行い、清掃意義の理解と意識を高める。	3		初めの会と終わりの会はきちんと実施できていた。集合に遅れる生徒が固定化していた。清掃時間一杯まで活動することが曖昧になっていた。
③通常清掃時トイレ清掃の強化とトイレの使い方・トイレ美化の強化を図る。 (トイレットペーパーの使い方、スリッパ並べ、ゴミの管理など)	2		きれいに使う・スリッパを並べることに関しては、職員の呼びかけやポスター作成などの成果が、概ね良好だった。しかし、ドアの破損や、授業中にトイレで過ごす生徒もいるなどトイレが隠れる場所になっている。

②ゴミが落ちてない環境作りと正確な分別。落ちていたゴミを拾う態度の育成。

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①HR教室のゴミ箱撤去による、自分で出したゴミは自分で持ち帰る事の呼びかけ。 (環境保健部職員の評価8割以上)	3	3	ゴミ箱を教室に置かず、自分のゴミは自分で持ち帰ることは定着してきている。しかし、ゴミ入れ用の紙箱に、本来なら捨てるべきではないゴミが捨ててある、ペットボトルなど自分のゴミが廊下が多かったなど、さらなる指導も必要と感じた。
②美化委員による定期点検とポスターによる呼びかけ。(美化委員の満足度90%以上、各種委員会で調査)	4		今年度も保健委員・美化委員・風紀委員のポスター作成を実施した。好評であった。
③学習環境が整った教室を目指す。(机の並び、ロッカーや机の中の整理整頓、落書き防止、持ち帰り)(美化委員の満足度90%以上、各種委員会で調査)	3		概ね良好であったが、廊下のロッカーの整理整頓をもう少し呼びかける必要があった。来年度は「整理整頓強化週間」などの仕掛けや美化委員会活動の活性化を図りたい。

③清掃用具の適切な配分と施設整備の充実。(環境保健部職員の評価9割以上)

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①施設の安全点検、定期的な用具補充の実施、要望への即時対応など。	4	4	定期的ではないが、事務室と連携を取って点検ができた。
②係職員による定期的な見回り、校内の環境整備。	4		2学期に施設や環境面の調査を行った。予算の問題もあるのですが、事務室と連携して改善できた。農業の先生方を中心に、定期的に校内の草刈りができた。

(2) 生徒及び職員の心身の健康の保持増進を図ると共に、主体的に健康・安全な生活を送ることができる実践力を育てる

①健康診断の徹底及び改善指導に努める。(健康診断の受診率100%)

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①事前連絡や欠席者への健診指導を徹底する。	4	4	担任や管理職としっかり連携して取り組めた。
②健康診断後すみやかに結果通知を行い、必要な検査・医療を受けさせるように努める。長期休業前に再度通知を行う。	4		4月の「健康診断の日」は、全職員協力の下、大きな問題もなく実施できた。

②学校生活における保健、安全指導を徹底する。(満足する職員・生徒が90%以上)

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①健康観察の実施を徹底し、感染症の集団発生及び、長期欠席者の早期発見に努め、保健委員などへの指導充実に努める。(保健委員の満足度90%以上、各種委員会で調査)	3	3	アルコール消毒の補充・石けんの取り替えなど、生徒から自主的に動くことが少なかった。2学期後半からはインフルエンザ対策も必要となり、教室の換気を呼びかけた。今後も呼びかけたい。
②部活動生を中心に、けが予防や救急処置の指導を行う。	4		予期せぬ行動による大ケガや、部活動でのケガに対し、臨機応変に対応できた。予防対策をしっかりとすべきと感じた。

③保健行事や保健室来室時を通じて自分自身の健康な心と体について自ら考え行動する事のできる自律的な生徒の育成を目指す。
(満足する職員・生徒が90%以上)

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①毎日の健康観察や保健室来室時、行事前の健康調査や保健日より自分の心身に関心を持たせる。	3	4	遅刻生徒が多かったため、担任との連携など、健康観察簿内容の把握が難しかった。保健日よりを中心に、健康について関心を持たせる内容を多く載せた。来年度も継続したい。今年度の保健室生徒来室数がものすごく多かった。心の安定を求める生徒や用事がない生徒も来室している状況。メンバーも固定化していた。保健室2名職員では対応できないことが多かった。来年度は教育相談部・年次・管理職と連携して対応する必要があると感じた。
②薬物乱用防止教室と性教育講座を実施し、正しい知識の習得と健康で安全な個人生活・社会生活を送るための意識を高める。 (反省調査の実施、職員の満足度80%以上)	4		9月に性教育講座、10月に薬物乱用防止教室を実施した。外部との連携がしっかりとできていた。感想など生徒はしっかりと取り組めた。

6. 図書渉外部【総合評価3】

(1) 学習拠点となる図書館づくり

①読書の推進と利用率を高める工夫。・来館者数 目標 1日10人以上・貸出冊数 年間 1人 2冊以上

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①学期初めに職員間で「朝読書」の共通理解を図り、また多様な生徒への支援を行い、県の図書アンケートで「読書が好き」「やや好き」と回答する生徒が合計5割を超えるよう働きかける。	3	3	今年度の読書アンケートで「読書が好き」「やや好き」と答えた生徒は約6割。朝読書活性化のために電子図書の利用も導入もしたが、あだ朝読書をしていない生徒もいるので、生徒への働きかけ方を工夫したい。
②図書館への来館者が1日10人以上になるよう図書委員と共に働きかける。	3		昼休みの利用者が固定化している。来館者は10人に届かない日も多いが、静かな環境は作れていて読書を楽しんでいる様子はうかがえる。今後、図書委員の活動を活性化したい。
③全職員を対象とした購入希望調査を学期1回実施する。また、特別支援の観点からも図書資料の充実を図る。	3		昨年度よりも多くの図書リクエストをして頂き、購入図書のジャンルの幅が広がった。また、図書研修等も活かして読書時の視覚支援につながるものも取り入れることができた。
④全校生徒を対象とした購入希望調査を年に2回実施する。また、図書館利用アンケートを実施する。	4		全校生徒向けに購入希望調査を実施したが、希望数は少数だった。生徒の希望を把握するためにも、調査方法を検討したい。

②「使える図書館」を目指して

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①年1回の書庫整理または蔵書点検を実施する。	3	3	随時書庫整理は行っているが、今年度も蔵書点検は行えなかった。

(2) 保護者や地域との連携を深めるとともに、様々な学校教育活動に参加できるシステム作りに努める。

①保護者に校内活動や、地域と連携した各種活動への参加を促すとともに、門川高校を知る機会を提供する。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①PTA行事の案内文書の配布を前月中に行い、参加を促す。	4	3	安心メールサービスでお知らせを保護者に直接発信できるようになったことで、多くの行事の周知ができたと感じる。
②PTA総会や学年保護者会の出席率70%以上を目標とする。	2		PTA総会の出席率は36%、委任状を含んで92%でした。学年保護者会の出席率は情報提供依頼をしていなかったため把握できておりません。
③PTA新聞「五十鈴川」を発行する。	1		現時点（12/24）で具体的に動けていない。

②PTA各種専門部会による研修会を充実させることで、参加者の輪を広げる工夫に努める。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①役員だけの研修会にならないように、幅広く参加を促す。	3	3	PTA役員の方々の協力もあり、どの行事も保護者の方の参加が多くあったように思います。
②家庭教育学級委員会（母親委員会）の研修（みどりのセミナー）参加者25名以上を数の目標とする。	3		第1回みどりのセミナーでは、門川高校の魅力であるホテルと防災カードについて楽しく学ぶことができた。第2回は県北母親研修会で代替し、様々なワークショップへの参加がみられた。
③同窓会と連携し、各種専門部会の活動を充実させ、PTA活動（役員活動）について、保護者、職員への周知を図る。	3		みどりのセミナーやミニバレー大会など、各行事を学校のインスタでも紹介し、内容を保護者・職員で共有することができた。

7. 事務部

(1) 学習指導の充実と進路希望の実現

生徒が主体的に学ぶ事業の実践

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
ICT活用の推進をはじめとする学習活動全般に対して予算面からバックアップする。	4	4	物品費については、真に必要な物については取得し、予算が不足する場合は、予算要求を行い、予算確保に努めた。
限られた予算を有効に使うため、メリハリのある予算執行をする。	4	4	予算の執行状況を見ながら、計画的な予算執行を行っている。
固定支出(光熱水費)・用紙・マスター・インクの使用量の3%削減を目標とする。	2	2	校内漏水が多発し、例年以上に水道代を多く支出している。また、その修繕に追われ、時間と経費を費やしている。
業務に専念出来るよう、職場環境を整える。	2	2	業務に必要な物品購入については、概ね対応できたが、施設整備関連で対応できていない部分があるため、予算の確保等努力していきたい。
職員と情報交換をすることで、現在不足していることが何かを把握する。	3	3	必ずしも実際の現場の状況が、事務部で把握していることと一致していないケースが見られた。

(2) 生徒指導及び生徒活動の充実

部活動活性化への支援

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
安全に部活動を実施するために、施設整備に尽力する。	3	3	年度内にはグラウンド西側防球ネットにLED投光器を設置予定。今後も整備が必要なものは予算確保に努めるが、来年度以降になる可能性が高い。緊急性や優先度を勘案した支援に努めたい。

(3) 保健・環境の充実

教育活動における事故の未然防止

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
危険箇所を早期に見出し、予算要求を速やかに行い、早期に修繕する。	3	3	上記のとおり、今年は漏水が多発しており、その修繕に追われている。
日頃からリスクとなる要因を洗い出す。	4	4	懸案事項として整理し、リスクの把握を行っているが、職員からの情報提供により把握することもあった。
職員と日常的に情報交換を行い、情報を共有する。	3	3	PTA雇用職員が変わったこともあり、私費の財務処理に必要な情報が行き届かないことがあった。

(4) 清掃をはじめとする環境美化活動の充実

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
産業廃棄物や一般廃棄物等、定期的に廃棄する。	4	4	年度末までに執行予定。
校内の美化に努め、常にきれいな状態を保つ。	3	3	気づいた時には、校内美化に努めたが、いき届かない箇所も見られた。

(5) 保護者や地域との連携

計画的・戦略的な広報活動の充実

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
丁寧な窓口対応・電話対応に努める。	5	5	学校の窓口として、事務職員全員で的確に対応した。
スタディサプリ等を活用し、保護者等との連絡体制を試みる。	1	1	これまでは防災メールで情報発信していたが、新たに採用したスタディサプリ等の利用方法を把握していないため、一切利用しなかった。

8. 農務部【総合評価3】

地域に根ざした農業教育の実践。生徒に農業の魅力に気付かせ、充実した農業教育を推進する。

(1) 総合学科である本校ならではの農業教育を推進する。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①1年次生に系列体験や産業社会と人間等を通じて、農業・食品加工の魅力伝える。	4	3	系列体験等を通して栽培ビジネス系列および食品加工系列の魅力伝えることができた。今後は、担い手育成協議会の予算を活用し、各年次生徒へ魅力発信の機会を増やしていきたい。
②地域・関係機関との連携を強化し、各種事業の充実を図る。	4		門川町ふるさと納税返礼品への協力、フィンガーライム栽培に関する役場や生産者との連携、食品加工系列の役場との連携事業など多方面との連携を充実させることができた。
③資格取得推進する。	3		危険物取扱試験は受験希望者に対する課外等実施し、受験をひかえている。小型車両系建設機械資格は、今年度は無事終了し全員取得することができた。次年度以降は専門性を生かした資格取得を目指させて進路の一助にしていきたい。農業技術検定は感染症対応のため全員不受験となった。次年度受験させたい。

(2) 農業系列の特色ある教育を推進するためバランスのとれた農業教育の推進と、円滑な農場運営を構築する。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①地域を含め宮崎の農業に即した学習内容や農場の適性規模について整理し、時代の変化に対応したカリキュラムと特別会計予算を編成する。また、ICT機器を利用した授業力の向上を目指す。	3	3	農場の適正規模を検討し、整理していくと共に教育課程を踏まえ特別会計予算の編成をしていきたい。ICT機器を利用した授業力の向上を目指すことが徐々に出来るようになってきた。一方で県下農業関連高校に導入されたドローンや温室管理システム、ラジコン草刈り機などライセンスの更新や使用頻度、授業との関連性を再検討することが課題として挙げられる。
②特別会計における適正な取り扱いを遵守し、複数の目で確認する。	3		生産物の売り上げ、在庫の確認等、特会担当と連携しながら適正な取り扱いを徹底することができた。今後も複数の目で確認し合いながら、運営していきたい。
③農場を活用し、生徒の学習の充実を図る。（認証教育（GAP・HACCP）の充実）	3		座学や実習で行うことができた。今後も、認証教育の充実に向けて、指導していきたい。

(3) 2系列の一体感をもたせた指導体制を確立し、学習や生活指導全般において連携を強化する。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①共通の意識を持たせるため、2系列合同の集会を実施する。	2	2	自然学級により農業系列生徒が各学級に混在し、調整ができず2系列合同の集会を実施するまでには至らなかった。次年度以降、自然学級の中でも農業系列の共通意識の養成のために計画していきたい。
②農ク関連集会運営は、農業クラブ役員で行わせ、リーダーとしての資質を育てる。	3		農業クラブの研修会等を計画し、生徒主体の集会の実施を検討していきたい。

(4) 農業クラブ員の活動機会を広げ、その運営をサポートし生徒の農業クラブ活動に対する意識を高める。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①月1回の各種委員会で役員による行事の企画・運営をさせていくことでサポートする。	4	3	月1回の各種委員会を有効的に活用し行事の企画・運営をさせていくことで農業クラブの意識を高めることができた。
②農業クラブ活動を活性化（プロジェクト・意見発表等）させ、農業に興味・関心を持たせる。	3		農業クラブの活動を通して興味・関心を持たせることができた。農業クラブの活動（地域との活動等）を増やしていきたい、さらに充実させたい。
③全国農業クラブ連盟大会農業鑑定競技において入賞を目指す。（優秀賞以上）	4		生徒の頑張りは大いに見られたが、優秀賞を取るまでは至らなかったが、あともう少しである。指導にあつたいただいた職員は平日遅くまで、休日も返上し、指導していただいた。着実に生徒も力をつけている。

II. 年次団のマネジメント計画

1. 1年次【総合評価2】

「当たり前」のことが当たり前前にできる生徒」の育成を図る。
(生徒一人ひとりに門川高校の生徒としての自覚や誇りを持たせ、自己肯定感を高め、将来に向けての目標を持たせる。)

(1) 家庭との連携を強化し生徒理解に努めるとともに、生徒の自立を目指した生活指導を行う。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①家庭との連携を図る。 ・家庭訪問の実施し、生徒理解に努める。 ・保護者との情報交換を積極的に行い、家庭の状況を把握する。	3	2	・家庭訪問期間の活用や三者面談を実施し、大いに生徒理解に繋がった。 ・ICTを活用(スタサブ・クラスルーム)し、保護者との連絡がスムーズになった。 ・提出物の回収が煩雑で担任の負担が大きい。対策でデジタル化が進むが解決までには至っていない。
②正しい制服着用の常時指導を行う。	2		・常時、登校時や校内で容儀指導を行っているが、一部の生徒で再三の指導に従わない生徒に苦慮した。学校全体で指導体制の明確化が必要である。口頭だけの指導では、限界を感じることが多々あった。
③生活指導を徹底する。 ・無断欠席・遅刻・早退の予防に向けた指導。 ・問題行動予防のための常時指導。 ・挨拶、礼法指導の徹底。 ・ベル着(1分前)の徹底	2		・生徒の中に遅刻・欠席が固定化する傾向が見られた。 ・保護者への連絡をこまめにするが、家庭の教育力の低下から改善の兆しが見られない。 ・問題行動が多く、その対応に追われる日々であった。常時、あらゆる立場から、先生方が指導や呼びかけを行っているが効果が現れない。 ・学校全体で、校則の検討や、生活面の指導の在り方を図れないものか。 ・トイレや教室の老朽化、鍵ありロッカーの整備等、生活環境の整備が必要である。

(2) 各教科と連携しながら基礎学力の定着や学習に対する意欲を喚起する。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①ICT端末を有効に活用し、日常の教科指導の補填等において個別最適化された学びの実践を目指し、多様な生徒への学習支援を充実させる。	3	2	・タブレットの活用では、学習活動に関係のない使用も見られ、生徒によっては学習効果が弱まる道具になりつつある。配布時に利用法について徹底的に分からせる必要がある。
②テスト前後の学習指導により学習に対する意欲喚起を目指す。(欠点保有0、全員進級)	2		・テスト前の学習会に力を注ぎ指導を行った。このことは、生徒の意識向上に繋がり、欠点保有者の減少傾向が見られた。 ・学習意欲を失っている生徒や、家庭学習が不十分な生徒への指導など数多くの課題を抱えている。
③こまめな声かけやサポートにより、提出物の期限を守らせる指導を行い、基礎学力の向上や学習習慣の確率を目指す。	2		・提出物の期限が守れない生徒が固定化されている。 ・自宅学習の取組みがない生徒が多く、学力定着が弱いと感じた。家庭学習(予習・復習)の工夫が課題である。

(3) 各行事や授業、LHR等におけるキャリア教育の充実を図り、自己理解を深め、望ましい職業観を認識させる。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①各活動において、目的を明確に伝え、Kadogawa Career LogやWorkを有効活用し、キャリア教育を充実させる。	2	3	・Workは産業社会と人間の授業で活用でき効果があった。 ・やる気を出させるため明確な目標を立てスケジュール管理能力を身につけさせる必要性を感じた。
②S0-G0と連携して「産業社会と人間」の授業を充実させる。	3		・産業社会と人間については、キャリアを見通した授業を展開することができた。 ・S0-G0や進路支援部との連携を密にし、進路意識を高める工夫が必要である。
③福祉科と連携して介護実習等を通して福祉科生徒の職業意識を高める。	3		・学校を離れての介護実習の経験から、生徒自身の成長を感じられる実習となった。 ・学科と連携し、日頃から挨拶や返事など基本的な行動習慣を意識して指導していく必要性を感じる。

(4) 温かい人間関係づくりや、委員会・清掃活動等を通し、所属意識、自己肯定感や環境を大切にする気持ちを高める。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①クラスや年次での活動において一人一役の場面を設け、生徒が協力したり、活躍できる場面づくりを行う。	3	3	・学校行事を活用し発表する場を設け、様々な生徒に活躍の場を作ることができた。 ・委員会活動とクラスの活動を上手く活用し自己肯定感や達成感を高められるよう働きかけを行うことができた。
②生徒とともに清掃活動に取り組み、奉仕の心を育てる。日頃から教室を整理し、学習環境を整えさせる。	2		・学習環境の整備は、日々声かけを行い、常に学習に取り組める環境づくりに努めた。教室や廊下、公共のものを適切に使用する意識を育てたい。 ・清掃活動は概ね良好に活動できたが、取り組まない(さぼる)生徒も見られ全生徒が活動するよう意識づくりやシステムを構築することが課題である。

2. 2年次【総合評価2】

「自ら考え行動できる生徒」の育成を図る。(生徒一人一人に目標と規範意識を持たせ、主体的に行動する生徒を育てる。)

3. 考えるチカラ 4. 行動するチカラ 5. コミュニケーション力

(1) 規律ある生活習慣を身につけると共に、他者を受け入れ協力して学校行事に取り組むことができるようにする。

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①基本的な生活習慣の徹底 ・無断欠席及び遅刻、早退の予防に向けた指導 ・挨拶、礼法指導の徹底 ・正しい制服着用の常時指導	2	2	・一部の生徒に服装違反、無断遅刻・無断欠席が見られた。年次での指導を強化、次年度は年次集会を頻回に行いたい ・期限内にマナーアップカードを提出出来ない生徒がいた
②奉仕や思いやりの心の育成 ・人権学習(統一LHR)を実施 ・清掃活動に生徒とともに参加	3		・生徒の実態に応じた人権学習内容であり、生徒達の反応は良かった ・清掃への意識が低い。LHRを活用した年次清掃を提案したい
③生徒一人一役の場面づくり ・生徒参加型の年次集会の実施 ・学校行事や委員会活動の主体的な活動を促す	3		・年次集会、講演会、学習成果発表、修学旅行等を通して、生徒が活躍できる場を提供した。発表の場と、活躍する生徒の幅を広げたい

(2) 各行事や授業等を通じたキャリア教育の充実により、自己の進路実現に向けた行動力を育成する。

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①インターンシップや介護実習の充実 ・地域の企業及び施設との連携を図る ・充実した事前及び事後指導の実施	2	2	・インターンシップや介護実習を通し、挨拶や言葉遣い、意思表示の仕方など課題が多かった。学校行事の日程調整が必須である。
②進路に関する情報の提供 ・オープンキャンパスやガイダンス参加を呼びかける ・求人票についての説明及び提示 ・就職試験及び進学試験に関する書類の説明	2		・1/22(木)、2/12(木)、3/13(金)進路学習を実施 ・3学期は全クラス三者面談を実施。生徒・保護者が進路意識を高め、次年度の進路指導に繋げていきたい
③日々の活動を通じたキャリア教育の充実 ・行事前の目的伝達や後の振り返り実施 ・Kadogawa Career LogやWorkの有効活用	2		・行事前後のキャリアログの活用が不十分だった ・先を見通した目標設定・タスクを細分化し、計画性と実行力を両立させる力を身につけさせたい

(3) 基礎学力の向上と専門的な学習への意欲を高める。

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①課題提出の徹底 ・教科担当者との連携 ・キャリアログミニを活用した予定管理	2	2	・教科担と担任が連携し、課題未提出者の提示を行っていったが、全員提出まで至らず、欠点者が多く出てしまった
②試験前後の学習指導の充実 ・試験前後の指導による学習意欲を喚起させる	3		・テスト前学習会を利用し欠点・欠課保有者の指導を行ったが結果が出なかった。学習環境を更に整える必要性を感じる
③ICT端末を用いた学習の効率化 ・効果的なタブレット活用による学習指導 ・多様な生徒への学習支援の充実	2		・タブレット忘れが固定化し、効果的な学習指導が行なえていない。 ・成績上位者への学習支援を充実させたい

3. 3年次【総合評価3】

「感謝の気持ちを忘れず、何事にも真剣に取り組み、進路実現後も最後までやり抜く生徒」の育成を図る。
(希望進路の実現を目指し、試験に対応できる学力や態度を身につけさせ、社会で活躍できる人材の育成を目指す。)

(1) 学びを深化させ、適性と希望に沿った進路を実現することができる。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①基礎学力の向上 ・課題提出の徹底 ・教科担当者との連携 ・個の生徒に応じた学習支援の実施	3	3	○入試対策の学習やテスト前学習会など、教科担当の先生方に個別で学習支援をしていただき、大いに協力していただいた。 ○廊下で学習する生徒もおり、意欲ある姿を下級生に見せることができた。 ▲課題提出状況については個人差がなくなり、また教科担当者との連携への働きかけが不十分で、年次としての指導が徹底できなかった。 ▲スタサプとの連動がうまくできないところがあった。 △主体的に取り組めるような課題の出し方の工夫も必要。
②進路実現に向けた支援 ・計画的な二者面談、三者面談の実施 ・進路支援部、教育相談部との連携 ・年次会での情報交換	3		○進路に関する提出物の期限を守ることに關しては、担任等の指導もあり、割と良好であった。 ○担任、保護者、年次団、系列、またメンターの先生方のご指導や連携協力により、多くの生徒が早い段階で内定を手にした。 ○年次会では、密な情報交換ができた。年次会の情報が所属の先生方にも共有されていた。 ▲対策していたつもりではあったが、支援が必要な生徒の進路指導に時間がかかっている。より早い段階から上手にアプローチしていく必要がある。 ▲より早く進路希望先を決定させるために、計画的に面談を行う必要があった。 ▲学校行事等で就職進学試験に向けて、落ち着いて準備ができない状況があった。上級学校の年内入試や就職求人等の県内数減少などに対応するためにも、早期の進路研究の充実が必要。

(2) 社会のマナーを身につけ、良識ある行動を取ることができる。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①基本的な生活習慣の徹底 ・無断欠席及び遅刻、早退の予防に向けた指導 ・挨拶、礼法指導の徹底 ・正しい制服着用の常時指導 ・キャリアログミニを活用したスケジュール管理	2	2	○少数の生徒を除き、無断遅刻や欠席はなく、出席状況は良かった。 ▲社会人に向けてメモを取る習慣を身につけさせたかった。 ▲進路が決まった後から、制服の着こなしに乱れが出てきた。立て直したい。 ▲真面目に学校生活を送っている生徒が多い一方で、一部の生徒による言動が、学ぶ雰囲気を壊しているため、当たり前のことを当たり前にさせる指導が引き続き必要。 △容儀面の乱れに關して、容儀指導以外に關してペナルティが課されない点が、日々の乱れに繋がっているのではないかと考えられる。
②キャリア教育の充実 ・Kadogawa Career Log やWorkの有効活用	2		○最後の学校行事ということで、以前より振り返りの文章も具体的に、長く書く生徒が多かった。多忙のため、フィードバックをすぐにしてあげられなかった。 ○キャリアログの活用は、行事やLHR等で、自分自身を見つめ返す良いきっかけになっていた。 ○過去の内容を確認しながら、履歴書等を作成する姿が見られた。 △ログとして活用しやすい形を検討し続けることが必要。 △数名は、キャリアログミニを使用していたが、習慣化はできていない。教員側からのタイミングの良い指導が必要。

(3) 生徒一人ひとりが自分の任された仕事や役割を周りと協力しながら、責任持って達成できる。

実践 (方策・手立て)	数値結果	指標別	改善 (結果の分析考察・課題改善案)
①生徒一人一役の場面づくり ・生徒が主体となって動ける教育活動の実施 ・上級生としての自覚を持った行動につなげる指導	3	3	○学校行事や地域との連携など、様々な場面において、3年生らしい主体的な行動が見られた。生徒それぞれの良いところを引き出せた。また、成長する姿が見られた。 ○役割があることで、責任感を持って行動する姿が見られた。 ▲一部に気持ちを抑えきれない生徒もおり、自覚のない言動が見られた。感情をコントロールする必要性を根気強く指導することが必要。
②思いやりのある心の育成 ・統一LHR (人権学習) の実施 ・生徒の自己肯定感を高める関わり ・集団で協力する場面の設定	3		○各行事や学年レクレーションなどを通して、生徒がクラスや年次、団のメンバーと協力して活動する姿が見られた。 ○自分の意見を発表する場やリーダーシップを発揮する場面を設定し、活躍の機会を作った。 ○LHRにて違反質問とアサーションについて計画を立ててもらい、実践した。 ▲集団行動の中で、ひとりよがりな考え方や楽な道を選ぶ一面があるので、引き続き指導が必要。 ▲一部の生徒が、学校生活の中で度々教師や他の生徒に対して暴言や不愉快な言動をするなど、問題行動をしていたが、特に改善に向けた指導がなされず、生徒自身や下級生、地域への悪い影響が心配される。 △社会人の心得やコミュニケーション技術について統一LHRを実施できると良い。

Ⅲ. 学科・系列のマネジメント計画

1. 福祉科【総合評価3】

福祉に関する基本的・専門的な知識と技術を習得させ、社会福祉の充実に寄与できる実践力を身につけさせるとともに、地域を愛する心を持った福祉の担い手(人財)の育成を目指す。

(1) 将来の福祉の担い手(人財)として必要な基本的生活習慣や礼儀作法を身につけさせる。

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①SHRや授業等での生徒とのふれあいを通し、日常指導を徹底する。	3	3	きちんとできる生徒もいるが、日常生活における服装指導や挨拶、言葉遣い等、施設実習や社会に出たときのマナー指導を徹底することが出来なかった。
②介護実習報告や福祉タイムを活用し、生徒による発表や縦の連携を通して、学科の団結力を高める。	4		福祉タイムを活用し、介護実習や検定、国家試験の教えあい等行い、縦の繋がりを意識した取組を行うことができ、学年を超えた学びにつながった。今後も継続して取り組んでいきたい。
③学科職員と生徒との面談を各学年1回行い、生徒との信頼関係を築く。	2		例年担任・副担だけでなく、学科全体で福祉科の生徒たちに面談等行って、サポート体制を強化していたが、今年度はクラスを超えた生徒一人一人の面談ができなかった。

(2) 専門的知識・技術の定着を目指した授業を実践し、学習の成果をあげる。

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①地域の外部講師による講義等によって生徒の意識を高める。	3	3	各専門職の講師の方々に来ていただき、福祉の専門性を高めることが出来た。実施後は、教わったことを介護実習の中で活用したり、生徒の進路意識に変化が見られた。今後も地域の方と連携して、生徒の意識向上に努めていきたい。
②専門的知識・技術の定着と向上のために確認テストや学期ごとに実技テスト等を実施する。	4		専門的知識や技術の向上にむけて、各先生方がそれぞれのタイミングで確認テストや実技のテスト等を実施し、生徒の知識技術の理解に努めることができた。また介護技術コンテストについては、学科全体で参観し、介護技術の専門性を高めることが出来た。
③教科間で情報交換を行い、教科指導力の向上に努める。	2		新たな時代を切り拓く学力向上事業では、今年度から3年間本校が担当となった。研究授業では、ICTの活用の仕方を含め、授業力向上に努める機会となったが、課題も残るものとなった。次年度に向けて、教科指導力向上のために連携して、本校の設定した課題解決に向けて、継続して教科指導力向上に努めていく必要がある。

(3) 介護福祉士国家試験の合格率を上げる。

実践(方策・手立て)	数値結果	指標別	改善(結果の分析考察・課題改善案)
①介護福祉検定の合格率70%を目標とする。	3	3	70%には到達が厳しかったが、各学年どの級も約半分近くの合格者をだすことができた。今年度から試験時期や形態が変更したため、来年度は1年生からマークシートに慣れ、練習問題を解く時間を今年度より増やして、合格率の向上に努めていきたい。
②新しい国家試験の受験対策を行い、介護福祉士国家試験の合格率100%を目標とする。			令和8年1月25日(日)に受験。 令和8年3月16日(月)14時 合格発表
③模擬試験の結果を分析し、授業改善を図り、生徒の学力をあげることを目指す。			毎年恒例で実施している九州医療科学大学での模試を2、3年合同で今年度も実施した。学校とは違う環境で、国家試験と同じ時間帯で取り組むことで、国家試験を更に意識した模試を実施することができた。また、国試対策として塾を行い、少人数で対策を行うことで、意識を高めることが出来た。

2. 総合学科【総合評価2】

多様な生徒が自らを活かし、活躍できる場を広げるために総合学科の特徴を活かして多様な学びの種類と機会を設定する。

将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習の重視

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
「産業社会と人間」で系列体験や企業・上級学校訪問を1年次と連携して実施する。	3	2	・企業・上級学校訪問で事前、事後の生徒指導を系列と年次が細かく（具体的に）連携できるとよい。
「インターンシップ」で2年次と連携し事業所の選定や事前・事後指導の充実を図る	2		・事業所の選定、依頼については系列が担当で定着。事前、事後の生徒指導を系列と年次が細かく（具体的に）連携できるとよい。
系列選択についてのガイダンスを行う（系列検討会議・年次PTA）	2		・系列決定前の面談（系列関係職員との）を必要に応じて設定する。

生徒の個性や特性を活かしながら、学習を通して学ぶことの楽しさや成就感を体験させる教育活動の展開

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
「門高学びのフェスティバル」（学習成果発表会）のポスターセッションの生徒の主体的参加と各系列の学びの共有を図る。	2	2	・発表者と聴き手が、対話を行って進めるというポスターセッションの形態についての研修（生徒・職員）の実施。
「門高学びのフェスティバル」（即売会）において、系列内・系列間の連携を深める取り組みの企画・運営を行う。	2		・即売会における目指す目的の共有は図られてきた。アンケートでも様々な改善案を頂いている。（系列間、年次で取組に差（時間的にも）があるなど。）次年度にいかしたい。
系列の学びを活かした地域活動の展開	4		・各系列において、熱心にとりくまれた。（別紙参照）

総合学科の在り方の検討や生徒確保のための魅力発信

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
産業社会と人間の通年履修の検討、生活・健スポ系列のあり方について検証する。	2	2	・総合学科の教育課程の編成について組織的に検討する機会が設けられた。産社の1年次通年履修、2，3年次の新たな学校設定科目の設定について今後提案していきたい。 ・通年で実施する産社の内容や新たな学校設定科目内容の検討
総合学科九州大会の運営、全国大会への参加を通し、他校の情報を収集する。	3		・九州大会への参加を依頼したり、全職員に九州大会冊子の配布したりした。また、全国大会参加報告会の実施（予定）により、総合学科について多くの職員に啓蒙することができた。
門川中学校と連携した取り組みの実践。（キャリア交流・学習成果発表会）	2		・門中1年生のキャリア交流については時期の検討が必要（暑さ対策） 高校の総探における地域連携の取組について学ぶ（紹介する）という当初の目的の確認が中・高ともに必要。

2-1 栽培ビジネス系列【総合評価3】

生徒一人ひとりの興味関心を喚起する授業及び実習を行う。

栽培における基礎・基本の定着、基本的な生活習慣の確立、将来、農業や、関連産業の担い手の育成を目指す。

(1) 授業や実習、地域との連携事業を通し、農業や自然・環境に関する基本的な知識や技術を習得し、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①座学と実験・実習の連携による知識・技術の定着を図る。	4	4	各科目において教科内実習を適宜取り入れ、特別会計とは別に実験・実習に取り組んだ。知識と技術のつながりや、考えて判断する力などこれまで以上に身に付いた。
②「次代を担う高校生林業体験学習」への2年次全員参加。	4		今年度も予定通り実施できた。林業大学の視察や、高性能林業機械の操作体験ができ、林業に対する理解が深まった。
③地域との連携、近隣小中学校との交流活動の実施。食育、花育活動等を実践する。また、他系列との連携を図り、生産物の活用等、学習の深化に努める。	4		各市町村、小中学校への花苗の配布、幼稚園との芋掘り交流会地域農家との連携など連携授業に取り組むことができた。

(2) 栽培ビジネス系列を選択した生徒への専門性を深める指導を強化する。また、農場運営において特別会計の適正な取り扱いを徹底する。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①ICT、DX、スマート農業に関する機器の活用を推進し、魅力ある授業づくりを目指す。	2	3	今年度、免許の期限切れによる失効や、故障、高額な更新手数料等で契約を中止した機器もある。導入されたはいいが、その後の対応が難しいため、検討が必要。
②教科内実習を取り入れた現場とリンクした学習の展開に努める。	4		系列内の栽培に関する科目において、十分に実施できた。生徒への理解も深まった。
③特別会計における適正な農場運営を行う。特に金銭の取り扱いについては複数で確認する。	3		系列会等で適宜呼びかけ、在庫管理等、事務特会担当と協力し、適正な農場運営ができていると思う。ただ、正確な在庫の把握が、現場と事務とでリンクしていない部分も多少あったため、チェック回数を増やすなど対策を行いたい

(3) 落ち着いた教育環境を確保し、授業・実習を通して安全教育や礼法指導を行い社会人としての基礎を身に付けさせる。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①あいさつや服装容儀点検の徹底を図る。	4	3	1年次から2年次、3年次、各部門と年次を重ねる中で一貫して指導できた。
②総合実習における服装点検の実施と安全教育の徹底を図る。	2		猛暑等による熱中症対策、実習中のケガなど、生徒も職員も安全教育の見直しを行いたい。
③即売会や普段の販売実習を通して、地域の方々との関わりから、自己肯定感の醸成、礼儀作法や接客マナーを身に付けさせる。	4		即売会については各部門で指導できている。今後も継続して取り組む。

(4) 資格取得の指導を充実させ、合格率の向上を図る。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①資格取得に伴う手続きを複数で行い、ミスのない体制づくりを行う。	4	3	特に問題なく行うことができた。
②年間1資格試験の受験を促す。	3		検定料が値上げしていることもあり、少数が複数受験している状況である。個々に応じた精選と個別指導、その職員対応のあり方の検討が必要。
③農業技術検定の合格率80%を目指す。	-		今年度受験予定であったが、感染症対応で中止となった。

2-2 食品加工系列【総合評価3】

1. 食のプロを目指して、創造力や実践力、道徳心をバランスよく兼ね備えた人材の育成を目指す。
2. 実社会で通用する食の安全に関する知識と技術を習得する。
3. 計画に基づく実践を遂行し、一人ひとりの進路実現を目指す。

(1) 基礎基本の徹底と作業安全管理体制の確立

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
1) 座学と実習を系統的に実施し、基礎基本を習得させ、食品の専門性を高める。また、ICT機器を利用した授業への取り組みを推進する。	3	3	○成果：座学と実習内容の連携を図り、食品の専門性を深めることができた。生徒のタブレット等を利用したICTを活用した授業への取組ができた。また、食品衛生に関する面では、食品事故等を未然に防ぐために作業工程のマニュアル化や実習室等の清掃、設備等の見直しを行った。 ●課題：食品安全・衛生に関するマニュアル化の徹底を目指す。
2) 食品安全マニュアルの適正実施や実習前点検を確実に実行し、食品事故の発生を未然に防止する態度を養成する。	3		

(2) 農産物を有効活用するための加工技術と食品衛生管理技術の習得

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
1) 5S活動の徹底（整理・整頓・清潔・清掃・躰）の励行と異物混入や交差汚染防止に努める。	3	3	○成果：実習等を通して衛生管理に関する知識を深め、地元の農産物を活用した新商品開発に取り組んだ。職員も加工部会に参加し、DXの取扱方や技術向上に向けて積極的に研修に参加した。 ●課題：実験・実習などの体験学習を積極的に行っていない。また、フードビジネスに関する専門的知識の習得を目指す。
2) 商品・製品の技術開発に向けての定着を図る。また、実験・実習などの体験的学習を通してフードビジネスにおける定着を図る。	3		
3) DXの研修並びに生徒への活用を定着させる	3		

(3) 資格取得による学習意欲の向上

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
1) 農業技術検定取得80%以上を目指す。	3	3	○成果：2年生の農業技術検定は感染症により実施できなかったため、来年3年生で受験をすることになった。検定に向けて課外を行いながら指導の徹底を行った。 ●課題：3学期にワープロ検定を実施予定。2年生を中心に積極的に取り組ませたい。
2) ワープロ検定2年生は全員、3年生は80%以上の受験を目指す。	3		
3) 資格取得を1人2個以上を目指す。（小型車両系建設機械など）	3		

(4) 地域との連携

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
1) 地域や社会と連携した農業クラブのプロジェクト活動を推進する。（地域連携事業の充実）	4	3	○成果：門川町役場と連携しながら門川町のお土産プロジェクトを進めている。博多駅へ市場調査に行ったり、新宿KONNE販売イベントに参加することができた。 ●課題：門川町のお土産品となる新商品開発を進め、年度末の成果発表会に向けて活動内容をまとめる。
2) 積極的にボランティア活動へ参加させる。（地域貢献活動）	3		

(5) 道徳意識の涵養

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
1) 授業開始時にルールやマナー遵守する態度を習慣化する。	3	3	○成果：授業前後の挨拶の指導や容儀指導などを繰り返し行うことができた。 ●課題：容儀面のルールや礼儀作法等の意識が低い生徒が多いため、継続して指導を行う。
2) あいさつ等の言葉を通して道徳意識（礼儀作法）の涵養に努める	3		

2-3 生活科学系列【総合評価3】

生活に必要な知識や技術を身につける意識の向上を図り、自ら考え、他者と協働してたくましく生き抜く力を育成する。

(1) 一人ひとりの良さを伸長するために系列職員で連携した指導を行う

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①専門教科や実技指導等において、個に適した効果的な学習支援のあり方を研究し、教科内で情報を共有する。	3	3	○実技指導において、複数回放課後練習会を設け、実施した。個別指導において効果があった。●対面、書面、ICT活用など、個に応じた教材開発の時間確保をしたい。後期時間割で放課後の実技支援が難しくなった。 ○3年次生は担任と連携して進路実現に向けた支援をすることができた。4年制大学1名、短期大学2名1年次生は系列開始時に面談をおこなうことができ、進路意識を確認できた。 ●2年次生は個別に進路の話はしても、面談という形の時間確保ができなかった。
②クラス担任と連携して学期に1回系列職員による面談を行い、進路実現を支援する。	3		

(2) 地域・社会に貢献できるように必要な能力や態度、職業観の育成

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①専門教科ならびに総合的な探究の時間において地域と連携して系列の学びを生かした取り組みを行う。	4	4	○絵本の読み聞かせ、ミシン応援隊、お魚料理講習会、地産地消みやざき弁当作り、夏休み親子料理教室、即売会など、年間通して地域交流活動を実施できた。生徒の学びを深める成長の機会となった。●次年度は取組の評価を教育課程に落とし込むことに力をいれたい ○事前指導では系列の生徒には保育基礎の授業と連携して事前事業の目的を伝え、心構えや記録用紙の記入のしかたなどについて指導できた。●2年次のインターンシップで系列以外の保育施設希望者への事前指導できる機会を考えたい。 ○即売会において、3年次生は保育基礎と連動、2年次生はフードデザインと連動した取組ができた。●ポスターを早めに作成し、本校のInstagramで告知をしたが、関係施設等にも配布や案内してもよかった。
②インターンシップや企業上級学校訪問の取り組みにおいて年次と連携して、職業観を育むための事前・事後指導を充実させる。	3		
③系列の学びに関連した学びのフェスティバルや交流体験において、仲間と協働する充実した取り組みを行う。	4		

(3) 専門知識や技術の習得を目指した授業実践と資格取得の推進

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①学習効果を高める一人一台端末の活用において、ICT活用指導力を向上する研修に参加し、教材研究を行う。	3	3	○ICT活用を意識した教材研究をすることができた。●昨年度よりはICTを活用した教材研究に取り組むことが出来たが、教師側の操作スキルアップがまだまだ必要である。 ○門川町と連携したお魚料理講習会や食生活セミナー、絵本の読み聞かせ講座などで学んだことが活動に生かすことができた。 ○保育検定2級に挑戦したい要望があり、意識の高い生徒がでてきた。●保育検定3級造形表現分野の合格率が過去最低であった。技術力向上につながる効果的な指導方法や課題の出し方を研究したい。 ●受検の在り方について今後検討が必要
②専門性を深める外部講師を招聘する。	4		
③家庭科技術検定（食物調理・被服製作・保育）合格率90%以上を目標とする。	2		
④日本語ワープロ検定、プレゼンテーション検定を2年次生受検、文書デザイン検定、情報処理技能検定（表計算）を3年次生で受検し、合格率70%以上を目標とする。	2		

2-4 健康スポーツ系列【総合評価3】

体育、スポーツに関する学習を通して、生涯を健康で生きがいある生活を送るための基盤となる基礎的な知識と技術を習得させる。また、心と体の健康を考え、広く社会貢献に寄与できる能力・態度を身につけさせる。

(1) 地域社会に貢献できるように必要な能力や態度を身につけさせる。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①学校生活全体を通して、礼儀作法や集団行動について、日常指導を徹底する。 （系列職員の評価8割以上）	3	3	元氣良くあいさつするなど、部活動を含めた指導によりおおむねできていたが、授業態度等で注意を受ける生徒が多かった。
②学期に1回の系列集会。必要があれば随時行う。（年2回）	2		日程の都合が付かず、今年度は実施できなかった。しかし、年次ごとに授業の中で講話などは行った。
③あかつき学園との交流会の企画・運営。ボランティア活動に年1回参加する。 （生徒の評価8割以上）	4		12月5日に実施した。準備などを含め、しっかりと活動できた。

(2) 進路学習と定期的な学力分析などにおいて組織的・継続的な指導を行う。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①定期検査や基礎学力テスト等を材料とした学力検討を行い、職員の共通理解と進路指導部との連携を図る。 （欠点者10名以下）	2	3	欠点者が延べ数で10名以上出てしまった。対策をしっかりとしたい。
②総合探究（デュアルシステムなど）の指導内容を整備し、外部との関わりや自己肯定感が持てるよう計画し、キャリア教育の実践を通じて職業観と進路意識を高める。 （生徒の評価8割以上）	3		今年度もデュアルシステムを無事終わることができた。終わった生徒の反省を見ると勤労観や感謝の気持ちが育っているように感じている。今年度から医療看護の生徒も対象に入れた。人数が増えたが、スムーズに運営できた。
③進路希望毎に小論文、面接、必要教科の組織的な指導が行えるよう組織化を図る。 （系列職員の評価8割以上）	4		3年次の面接・小論文指導では、進路支援部や3年次との連携を図りながら、系列担当職員全員で行うことができた。2年次・1年次に対しても、進路意識の向上など、しっかり促すことができた。全職員の協力のもと、ほとんどの3年生について進路内定を頂くことができました。

(3) 各資格取得、検定試験合格を目指す。系列職員の連携強化。

実践（方策・手立て）	数値結果	指標別	改善（結果の分析考察・課題改善案）
①各検定試験の合格を目指す。 （生徒資格取得率6割以上）	3	3	「スポーツと情報」授業の一環として、2月の情報処理検定を受験させる予定である。防災士の資格取得も呼びかけに力を入れたので、今年度は人数が増えた。
②生徒理解を深めるために職員間の意見交換を積極的に行う。 （系列職員の評価8割以上）	4		各先生方が生徒と関わっていただき、共通理解の上で指導に当たることができた。